

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：14503

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K13514

研究課題名（和文）授業実践の記録・分析・解釈に着目した授業研究方法論に関する研究

研究課題名（英文）Classroom research methodology focusing on recording, analyzing, and interpreting classroom practice

研究代表者

松田 充（Matsuda, Mitsuru）

兵庫教育大学・その他部局等・准教授

研究者番号：80845991

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、記録、分析、解釈の方法に着目しながら、授業研究の方法論を明らかにすることを目的としていた。本研究の成果として（1）授業の記録方法に着目しながらドイツにおける授業研究アーカイブの活用方法をインタビュー調査などから明らかにしたこと（2）教師の専門性を踏まえた授業記録の分析方法の仕方を明らかにしたこと、（3）解釈の観点については近年注目されている「承認」概念を取り上げ、その教育学的な可能性を明らかにした。以上の三点を踏まえて、授業研究を教師教育でより有効に活用していくための授業研究アーカイブを実際に開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、授業研究における記録・分析・解釈というそれぞれの段階の方法論に着目しながら、授業研究の方法論を体系的に明らかにするという研究に取り組み、その成果をもとに学会での研究発表、学術論文の執筆、書籍の刊行を行うことができた点に、学術的意義と社会的な意義がある。また本研究によって得られた授業研究の記録や分析方法の知見をふまえながら、教師教育で活用可能な授業研究アーカイブを開発した点にも本研究の学術的、社会的な意義が存在している。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to clarify the methodologies of class research, focusing on the documentation, analyze, and interpretation. The results of this research is follows: (1) documentation: clarification of the use of Teaching studies archives in Germany through interview surveys (2) analyze: clarification of the method of analyzing class records based on teachers' expertise and (3) interpretation: the concept of "recognition," which has been attracting attention in recent years, was taken up and its pedagogical possibilities were clarified. Based on the above three points, I actually developed the "Lesson Study Archive" for more effective use of lesson Study in teacher education.

研究分野：教育方法学

キーワード：授業研究 教授学 アーカイブ ドイツ 教師教育 承認

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の授業研究は伝統的に、授業の改善や教師の専門性の向上を目的とした実践的な研究として発展してきた。しかしながら、授業研究が授業実践を対象とする学術的な教育学研究であるという文脈の中では、その研究方法論が未確立であることが課題として指摘されるようになってきている。

授業研究の研究方法論という観点から見ると、授業研究には少なくとも次の三つの段階がある。すなわち、複雑な営みである授業を何らかの機器や方法によって記録する段階、その記録に基づいて授業を分析する段階、そして分析の結果を踏まえて実践的に有意義なものへと解釈する段階である。したがって、授業研究の研究方法論を捉える際に、それぞれの方法について研究を進めていく必要がある。しかしながら日本の授業研究では、その成果を示す際に記録やその分析を踏まえた授業の解釈のみが示されることが多く、その解釈へと至る過程がブラックボックスとなっている。それゆえ、授業研究を科学的な研究として確立するためには、授業実践の記録と分析の方法を明確にしていきながら、その解釈の妥当性を提示することが重要なのである。

ドイツの授業研究 (Unterrichtsforschung) は、社会科学の領域の中で経験科学的な研究として取り組まれてきており、その教育学研究としての「精緻化」が進められてきている。そこにおいては、授業実践の記録・分析・解釈という三つの段階はそれぞれ異なった研究課題として認識されており、それぞれの研究的な妥当性が追求されてきている。この点において、日本の授業研究を発展させる契機がドイツの授業研究にあると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、授業実践の記録・分析・解釈の三つをそれぞれ異なった課題として位置づけるドイツの授業研究を対象にして、研究方法論におけるその記録・分析・解釈の方法を明らかにすることである。その際、授業研究の活用方法も視野に入れることで、どのような目的に対してどのような方法が用いられているのかを検討する。

3. 研究の方法

研究方法は、以下の二つを取った。

(1) 主に文献研究によって、ドイツにおける授業研究の方法論について調査した。

現代のドイツにおいて授業研究がどのように取り組まれているのかを、主に研究方法論に焦点を当てて、整理することに取り組んだ。とりわけ、研究の対象とした文献は以下のものである。

・ Rabenstein, K., Proske, M. (Hrsg.) (2018) : *Kompendium Qualitative Unterrichtsforschung. Unterricht beobachten - beschreiben - rekonstruieren*. Klinkhardt, Bad Heilbrunn.

・ Reh, S., & Ricken, N. (2012). Das Konzept der Adressierung. Zur Methodologie einer qualitativ-empirischen Erforschung von Subjektivierung. *Erziehungswissenschaft. Traditionen und Zukünfte -50 Jahre Deutsche Gesellschaft für Erziehungswissenschaft*, 48(25), 35-56

・ Ricken, N., Rose, N., Kuhlmann, N., & Otzen, A. S. (2017). Die Sprachlichkeit der Anerkennung. Eine theoretische und methodologische Perspektive auf die Erforschung der "Anerkennung". *Vierteljahrsschrift für wissenschaftliche Pädagogik*, 93(2), 193-235.

・ Baltruschat, A. (2018). *Didaktische Unterrichtsforschung*. Wiesbaden: Springer VS.

・ Hünig, R., Pollmanns, M., & Kabel, S. (2019). Zur Kritik „normativ abstinenter“ Unterrichtsforschung. Eine schulpädagogisch-rekonstruktive Positionierung zum Problem der Erforschung schulischer Vermittlungsprozesse. *Zeitschrift für Qualitative Forschung*, 20(2), 271-288.

(2) 授業研究の教師教育への活用場面についての調査

授業研究が教師教育にどのように活用されているのかを文献とともに、ドイツのライプツィヒ大学とミュンスター大学を訪問し、調査した。研究の対象とした文献は以下のものがある。

・ Biaggi, S., Kramer, K. & Hugener, I. (2013). Vorgehen zur Förderung der Analysekompetenz in der Lehrerbildung mit Hilfe von Unterrichtsvideos - Erfahrungen aus dem ersten Studienjahr. *SEMINAR*, 19 (2), 26-34.

・ Heinzl, F. (2020). Falldarstellungen in der Lehrerinnen- und Lehrerbildung. In C. Cramer, J. König, M. Rothland & S. Blömeke (Hrsg.), *Handbuch Lehrerinnen- und Lehrerbildung* (S. 700-705), Bad Heilbrunn: Klinkhardt.

・ Kramer, K. (2020). Videos in der Lehrerinnen- und Lehrerbildung. In C. Cramer, J. König, M. Rothland & S. Blömeke (Hrsg.), *Handbuch Lehrerinnen- und Lehrerbildung* (S. 691-699), Bad Heilbrunn: Klinkhardt.

・Kunze, K. (2020). Kasuistische Lehrerinnen- und Lehrerbildung. In C. Cramer, J. König, M. Rothland & S. Blömeke (Hrsg.), Handbuch Lehrerinnen- und Lehrerbildung (S. 681-690), Bad Heilbrunn: Klinkhardt.

4. 研究成果

本研究で得られた成果を授業研究の記録・分析・解釈を観点に述べていく。

(1) 授業研究の記録について

授業研究の記録については、研究方法論に応じた記録の取り方がなされていることはすでに指摘されている中で、その記録の使用目的に応じて記録の取られ方が変更されることを指摘した。具体的には教師教育の文脈において、日常の実践を対象にした分析を行うのか、ベストプラクティスとして分析するのか、自分の授業を分析するのか、他者の記録を分析するのかなどの点である。このような記録の違いを明らかにしたうえで、ドイツの教員養成課程において取り組まれている授業研究を対象に、その実践を分析することによって、授業研究を通して身につけようとしていく教師の専門性を明らかにした。

関連する成果は以下のものがある。

松田充(2022)「ドイツにおける授業研究アーカイブを活用した教師教育実践に関する研究」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』67(1)、158-163頁。

松田充、別惣淳二(2024)「兵庫教育大学における授業研究アーカイブの構想と開発」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』69(1)、372-377頁。

(2) 分析について

授業研究の分析方法は、例えば、談話分析、エスノグラフィー、コンテンツアナリシスなど様々な存在している。基本的には社会学や心理学で用いられている分析方法を授業研究に応用するかたちとられている中で、教授学研究の理論的な蓄積を踏まえた独自の分析方法を「教授学的授業研究」として提案するバルトルシャットの授業研究を取り上げ、その分析方法について検討を行った。そこにおいては、分析の観点を教授学理論から導出することが行われており、教授学理論を用いるからこそ、「教育学的に意義のある」分析が可能となることが強調されていた。そして社会学的な見方や心理学的な見方ではなく、教育学的、教授学的な観点を設定するからこそ、教師の専門性の向上を期待することができる授業研究となりうることを指摘した。

関連する成果は以下のものがある。

松田充(2023)「ドイツ教授学の現代的転回 - 教師教育における教授学の役割を中心に - 」中国四国教育学会編『教育学研究ジャーナル』29、1-11頁。

(3) 解釈について

ここでは、授業研究の解釈において重要となってくる「概念」を取り上げ、その教育学的な可能性を検討することを行った。ここでは「承認」という概念を対象にして、K.Stojanov の承認に関する所論を手がかりに、その教育学的な含意を明らかにした。承認とは、単に他者を受容したり、認めたりすることを意味するのではなく、むしろ他者の発達や成長の可能性を認めることであり、そうであるからこそ、承認が教育的行為として成立することを明らかにした。

関連する成果は以下のものがある。

松田充(2022)「学校教育における承認の可能性 K.ストヤノフの人間形成論を手がかりに」日本教育方法学会『教育方法学研究』48、1-12頁。

松田充、佐藤雄一郎(2023)「批判理論と学習集団」深澤広明、吉田成章編『学習集団研究の現在 Vol.4 授業研究を軸とした学習集団による学校づくり』溪水社、138-151頁。

さらにこれらの成果を踏まえながら、教員養成において授業研究を活用するための授業研究アーカイブの開発を行い、運用を開始したことも、本研究の成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 松田充 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 ドイツ教授学の現代的転回 - 教師教育における教授学の役割を中心に - | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 教育学研究ジャーナル | 6. 最初と最後の頁 1-11 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 松田充, 佐藤雄一郎 | 4. 巻 63 |
| 2. 論文標題 生活指導論における不登校理解をふまえた学校づくりに関する一考察 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 兵庫教育大学研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 89-95 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 松田充, 別惣淳二 | 4. 巻 69(1) |
| 2. 論文標題 兵庫教育大学における授業研究アーカイブの構想と開発 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 教育学研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 372-277 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 松田充 | 4. 巻 48 |
| 2. 論文標題 学校教育における承認の可能性 K.スタヤノフの人間形成論を手がかりに | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 教育方法学研究 | 6. 最初と最後の頁 1-13 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Nariakira Yoshida, Mitsuru Matsuda, Yuichi Miyamoto | 4. 巻 10 |
| 2. 論文標題 Intercultural collaborative lesson study between Japan and Germany | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 International Journal for Lesson and Learning Studies | 6. 最初と最後の頁 245-259 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/IJLLS-07-2020-0045 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 宮本勇一・松田充・安藤和久・藤原由佳・阿蘇真早子・金原遼・三戸部由幸・澤田百花・藤井翔太・明月・吉田成章 | 4. 巻 3 |
| 2. 論文標題 授業研究の日独共同比較研究 広島大学教育方法学研究室・ライプツィヒ大学一般教授学講座間の共同研究報告書 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科教育方法学研究室編『教育方法学研究室紀要』 | 6. 最初と最後の頁 33-52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 松田充 | 4. 巻 67 |
| 2. 論文標題 ドイツにおける授業研究アーカイブを活用した教師教育実践に関する研究 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 中国四国教育学会編『教育学研究紀要』(CD-ROM版) | 6. 最初と最後の頁 483-494 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 松田充 |
| 2. 発表標題 承認の教育学的再構成 K. ストヤノフの「文化的承認」を手がかりにー |
| 3. 学会等名 日本教育学会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yuichi Miyamoto, Yuka Fujiwara, Kazuhisa Ando, Masako Aso, Yue Ming, Mitsuru Matsuda, Nariakira Yoshida |
| 2. 発表標題 The Landscape of Researches on Lesson Study: An attempt to develop online research database of LS |
| 3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2021, Symposium “Teacher Educators’ Involvements in School-based Lesson Study: A Case of Japan”, Macau and Hongkong (Online) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松田充 |
| 2. 発表標題 ドイツにおける授業研究アーカイブを活用した教師教育実践に関する研究 |
| 3. 学会等名 中国四国教育学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松田充 |
| 2. 発表標題 A.バルトルシャットの教授学的授業研究の批判的検討：授業研究の教師教育への応用可能性 |
| 3. 学会等名 日本教育方法学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松田充 |
| 2. 発表標題 教育実践における承認の問題：N.Rickenの「教育的行為としての承認」を手がかりに |
| 3. 学会等名 日本教育学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 深澤広明・吉田成章 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 溪水社 | 5. 総ページ数 192 |
| 3. 書名 学習集団研究の現在Vol.4 授業研究を軸とした学習集団による学校づくり | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|